

≡ ジオパーク応援団だより ≡

第8号 | 2016.3.1

下仁田戦争(2)——これもジオの一つ——

里見哲夫

1864年(元治元)11月15日夕刻小坂坂峠から下仁田入りした天狗党920人余は、桜井家を本陣としてそれぞれ各所に分散して宿営しました。同夜は襲撃に備えて街を取り巻く各要所には見張りをつけて警備に当たりました。一方、高崎藩は城代家老の命を受けて、天狗党を追撃すべく同日夜、一の宮貫前神社で小幡・七日市両藩兵と落ち合って、合同の作戦会議を開きました。これを受けた小幡・七日市両藩は、兵も武器弾薬も少ないことを理由に協力を断りました。高崎藩はついに単独で追撃をすることとなってしまいました。高崎藩も本隊は那珂湊に出兵中で、高崎城に残留する部隊を4隊に分けて、戦闘に備えました。16日朝4時頃、天狗党の見張りにより梅沢峠から高崎藩が押し寄せてくるとの一報が本陣に入りました。天狗党本陣は各隊に出撃命令を出して、一隊を正面より大砲で高崎藩の本陣(里見家前の畑)を攻め、ここに敵を誘導する作戦を取りました。

東方からは伊勢山より熊野山の下(現在の歴史館)のある崖の上から襲撃しました。西方は鎗川を挟んだ森沢から砲撃隊による砲撃を始めました。作戦に長けていた天狗党は三面挟撃作戦を取りました。しかし、この時対戦した高崎藩の1番隊は109人。これに対し、天狗党は920人余で戦闘が開始となりました。

高崎藩の2番隊92人は梅沢峠より安導寺で追撃してきた天狗党と一戦となりまして、民家数件が戦火によって焼失しました。3番隊は戦いに間に合わず、午前10時頃には激戦は終結していました。この一戦での犠牲者は高崎藩36人。天狗党4人でした。

高崎藩兵の遺体は家族が引き取り高崎市内の墓地にそれぞれ葬られています。天狗党の墓地は、梅沢峠入り口に1柱、本誓寺に2柱、旭町に1柱が葬られています。下仁田戦争の遺跡はいずれも町の文化財に指定されています。

【季節の花】キブシ

早春の山道に沿って、落葉低木で、黄色いカンザシ状の花がみられます。

うす黄色で鐘形の小さい花を多数つけていますが、おす木とめす木があります。この実は昔、お歯黒(歯を黒く染めること)に使いました。

染料として現在も使われていますが、お茶花としても愛されています。

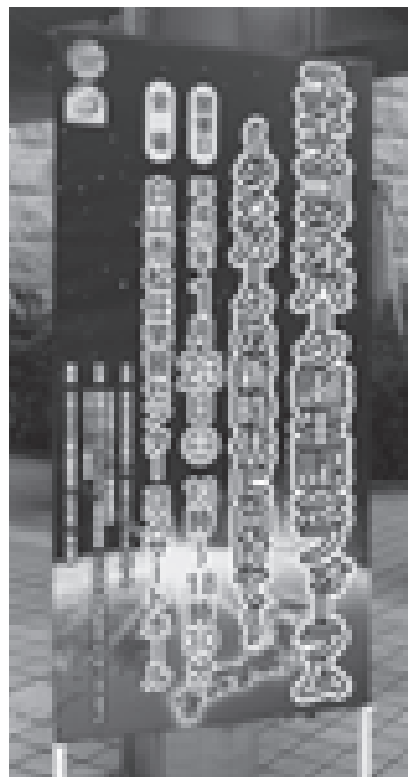


「ユネスコジオパーク誕生記念フォーラム」に参加しました

1月23日に石川県白山市で開催された「ユネスコジオパーク誕生記念フォーラム」に応援団から3名参加しました。このフォーラムは、昨年11月にジオパークがユネスコの正式な事業になったことを祝い、今後の活動はどうあるべきかを話し合うために開かれました。日本全国の55地域から300人が集まりました。

シンポジウムでは、国内外で活躍する先生方の講演を聞くことができました。ユネスコは教育・科学・文化の交流を通して、国と国とが互いのことをよく知り誤解を解くことで紛争を未然に防ごうとしています。ジオパークの活動に参加するということはユネスコの活動の一翼を担うことにもなります。とてもやりがいのある活動なのだと感じました。

記念祝賀会では、開催地である白山手取川ジオパークのテーマになっている「水」を利用したおいしいお酒をいただきながら各地との交流を図りました。若者もたくさん参加していて老若男女が熱くジオを語り、会場は熱気にあふれていました。



【毎月20日は下仁田ジオパークの日】

“2016ジオの日清掃活動今年もいよいよスタート!!”



日時 3月20日（日） 8:00～8:45

場所 青岩公園 現地集合（川井の断層・下仁田層&諏訪神社にも分かれて作業を行います）

* ゴミ袋は用意します。作業しやすい姿で、軍手は各自で準備ください。

「ジオの日」とは、2をジと読み、0をオと読む語呂合わせから、下仁田町では毎月20日を「下仁田ジオパークの日」として制定されました。

制定を通して、より一層ジオパーク活動に親しんで頂き、故郷の先人が築いてこられた産業文化遺産や地層・地形に至るメカニズムや産物等を、皆で大切に守り伝えていきましょう。また、下仁田町にお越し下さるお客様へのおもてなしの活動でもあります。

* ジオパークとはの見識を広める為にも団員皆様のご協力、ご参加をお願いいたします。-

ジオパークで
地域に活力を!!

ジオパーク推進だより

下仁田町自然史館
下仁田町大字青倉158-1
☎70-3070 FAX67-5315
<http://www.shimonita-geopark.jp/>

ジオパークのユネスコ正式事業化について

1月23日に石川県白山手取川ジオパークでユネスコジオパーク誕生記念フォーラムが開催されました。フォーラムではパトリック・マッキーバー氏（ユネスコ生態地球科学ジオハザード減災セッションチーフ）による講演があり、ジオパークのユネスコ正式事業化について次のように説明がありました。

「世界ジオパーク」は、2004年に発足した民間団体「世界ジオパークネットワーク」で認定審査を行い、ユネスコは支援というかたちをとっていたが、昨年11月、国連教育科学文化機関（ユネスコ）のパリ総会で、現在の世界遺産認定と同じように、ユネスコの正式事業となりました。審査の重点は、国際的に重要な地質の保護と教育、持続可能な開発、そこに生きる人々の生活や歴史などです。また、過去の災害について、次世代に伝える教育も必要です。4年ごとの再認定制度によって、常にチェック機能も働いています。ジオパークは、「地球の活動が見られる自然の公園を、教育や地域活性化に生かしていく取り組み」であると説明がありました。

ジオパーク関東大会を開催します

2016年11月20-21日にジオパーク関東大会を開催します。（下仁田ねぎ祭りと同時に開催！）

■日本ジオパーク関東地区大会とは？

この大会は、関東圏のジオパークが集まる一大イベントです。開催地は地域内で持ち回りとなっており、今年は下仁田での開催に決まりました。大会では、地域間の交流を深めたり、関東一丸となった観光戦略や、課題解決など、ジオパークをより良くするため議論をします。当日は関東圏内の多くのジオパーク関係者が下仁田に集合します。下仁田の関東大会を盛り上げ、成功させるため、みなさまのご協力をお願いします。

■関東大会に向けて

たくさんのお客さんを迎えるにあたり、ジオパークガイドボランティアの募集を行います。ジオパークガイドは、お客さんに下仁田ジオパークの見どころや楽しみ方を案内する人です。詳細は広報4月号でお知らせします。みなさんのご応募お待ちしております。

行事予定 下仁田自然学校主催 ～下仁田自然学校研究交流集会～下仁田の大地の不思議を語る普及講演会

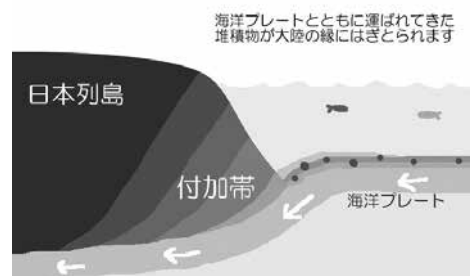
3万年前の人たちの息吹が見つかる山である金剛萱では、今年も発掘が進みました。発掘には下仁田中学校の生徒の皆さんも参加しました。金剛萱の大規模な地滑りを調査するグループもあります。今回の普及講演会では、各グループの研究成果も発表します。新しい発見や疑問が次々と湧いてくる下仁田は自然の秘密の宝庫です。どうぞご参加ください。

【日時】3月12日（土） 14:00～16:30 【場所】下仁田町公民館大会議室

【内容】1「金剛萱遺跡、3万年前の旧石器人」金剛萱遺跡研究グループ
2「金剛萱の大規模地滑り」大規模地すべり研究グループ

ネギとコンニャク・ジオパーク

ジオの話にはたくさんの石の名前が登場します。そのなかに出てくる石灰岩やチャートは付加体の岩石です。付加体とは一体何でしょうか？付加体は、海底にたまった砂や岩石が大陸に付加したものです。海洋プレートは海嶺で作られ、長い時間をかけて海底を移動します。その間にチャート、石灰岩、砂岩、泥岩などの多くの堆積物がプレートにのります。プレートが沈み込む際に、この堆積物が陸側にはぎ取られて付加体になります。



※下仁田町自然史館では、午前9時から午後4時まで展示室を開放しています、ぜひお出かけください。

※3月の休館日は7日・22日です

問合せ先 産業観光課 観光振興係(下仁田町自然史館) ☎70-3070